

青少年  
平和交流団  
に参加した、



うちだしんいちろう  
**内田 慎一郎**くん  
東京学芸大学附属小金井中学校1年生

いながきあおい  
**稲垣 葵**さん  
市立第四中学校2年生

なまえけんしろう  
**生江 健志郎**くん  
市立第三中学校1年生

## 座談会

# 武蔵野市青少年平和交流団の 体験を通して

武蔵野市が非核都市宣言を行って、今年で30周年。

市では、戦争の悲惨さ、平和の大切さを、次代を担う子どもたちに肌で感じてもらうと、長崎市が主催する「青少年ピースフォーラム」に青少年平和交流団を派遣しました。

中高生による青少年平和交流団12名は、8月8日から10日までの3日間、被爆者の体験講話を聞いたり、資料館の見学などを行い、

また全国から集まった約350名の中高生たちと平和をテーマにした学習や交流会に参加しました。普段はあまり考えることのなかった、戦争と平和について、深く知ることができ、意識を新たにしてきたようです。

ーまず、みなさんが青少年  
平和交流団の員として、参  
加したいと思った理由を教  
えてください。

**内田** 小学生のときに  
「平和」についての授業が  
あって、そのときに被爆者  
の気持ちを考えたんです  
けれど、あまりよく分か  
らなくて。それで今回、被  
爆者の方の話をしっかり  
聞きたいと思って参加しま  
した。

**生江** 漫画の「はだしのゲ  
ン」を読んだときに、広島  
の原爆の惨状にとっても驚  
きました。その後、家族で  
広島に行つて平和記念資

料館などを訪れたりしたんですが、長  
崎の原爆のことは、広島ほど知られて  
いないと感じました。だから気になって、  
今回長崎の原爆のことを知りたいと思  
いました。

**稲垣** 中学1年生のときに国語の授業  
で「おとなになれなかつた弟たちに……」  
という戦時中の話を学びました。その  
時に戦争って何だろう、平和って何だろ  
うと考えたけれど、もっとちゃんと考え  
たくて参加しました。

ー平和記念館や原爆資料館、戦後67年  
経つてもまだ残る原爆の痕跡などを見学  
したのですが、どこでしたか。

**稲垣** 長崎はとてもきれいなまちで、  
こんな場所に原爆が投下されたなんて  
信じられない感じでした。でもクスノキ  
に原爆の爆風で飛んだ石が今も埋まっ

ていたり、資料館には、原爆で皮膚が崩  
れた人の写真や、原爆が投下された11  
時2分まで止まっている時計があつたりし  
て、本当なんだと実感しました。

**生江** 広島の方が強力だったことを知りま  
した原爆の方が強力だったことを知りま

た原爆の方が強力だったことを知りま



長崎の被爆者・永野悦子  
さんの被爆体験を  
みんなで聞きました。



深く考えさせられたこと、楽しかったこともあった平和交流団体験

した。だからかどうか分かりませんが、広島よりも長崎の方が、原爆の爪痕が今もたくさんまっしろに残っているように思いました。

**内田** 原爆による傷が建物に残っていたり、石でできた神社の鳥居が半分吹き飛ばされているのを目の当たりにして驚きました。爆風や熱線がどれほどのものだったのか、想像もできないほどひどかったのだと感じました。

——「青少年ピースフォーラム」はどんな内容でしたか。

**生江** まず被爆者の方の体験講話を聞きました。弟と妹が原爆で亡くなったという話を聞いて、自分の家族がもしそうになったらと思うと、とても怖かったです。

「青少年ピースフォーラム」ではみんなで話し合っ  
て平和宣言文をつくりました。



爆風で飛んだ石がめりこんだまま残る山王神社のクスノキを見学しました。

**内田** 「日本がもっと早く終戦を受け入れていたら亡くなる人はもっと少なかった」という言葉が印象的でした。  
**稲垣** 何の予測もなく突然家族が死ぬ、周りの人も大勢死ぬ、というこの怖さ、悲しさを痛いほど感じました。

——平和について、全国から来た中高生たちと、さまざまなテーマで話し合ったんですよね。

**稲垣** 私の班では「相手に思いやりを持つにはどうしたらいいか」を話し合いました。いろんな意見が出た中で「相手の欠点を指摘してあげるのも思いやりだ」という意見が出て、そういう考えもあるんだと印象に残りました。

**生江** 僕たちの班は「いじめをしないためには」がテーマでした。「人を傷つけない」とか「相手の気持ちを考えて嫌がることはしない」とか意見はさまざまでした。

**内田** 僕たちは「人権の尊重」がテーマでしたが、やっぱり「思いやりを持つ」「いじめをなくす」といった意見が交わされました。

——今回の派遣を終えて、どんな感想を持ちましたか。

**稲垣** 家族と一緒に普通に生活できることが、どれほど平和で幸せなことかと感じました。これから家族や友達をもっと大切にしたいと思いました。

**生江** 戦争で家族が同じ目にあつたらと思うと怖かった。原爆1発でこんなことになるのに、今でも核兵器を約1万発も持っている国があることが異常に思えました。

**内田** 平和祈念式典で被爆者の方々が歌った歌に「もう二度とつくりたくない、私たちが被爆者を」という歌詞があつて胸に残りました。戦争をしてはいけないというメッセージを、僕たちもずっと伝えていきたいと思いました。



長崎から帰宅した後、平和交流団での体験をノートにまとめました。

## 中学生記者募集!!

あなたも『むさしのライフ A to Z』の中学生記者に挑戦してみませんか。武蔵野市内にまつわる素朴な疑問や知りたいことなどを折り込みハガキに記入して、どんどん応募してください。友達と一緒にの参加も歓迎です。